

『へっぽこの爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳縦走記』

2018.03 菅野靖司

3月28日（水）～4月1日（日）にて山行して来ました。久しぶりのソロ山行なので、淋しい～！

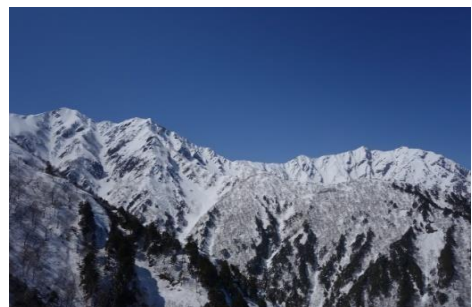
3月28日（水）晴れ

鹿島槍スキー場駐車場に車を止め、狩野さん宅（旧鹿島山荘）まで歩いて戻り、山行開始。

オババの碑に山行の安全を祈願し、爺ヶ岳東尾根に取り付きました。標高 1331 のピークまでは殆ど雪がなく藪こぎ状。

1476m、1767mのジャンクピークの緩やかな尾根伝いに登る。爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳の展望がとても綺麗でした。1978m付近で幕営しました。5時間半の工程でした。満月に照らされ、浮かぶ爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳はとても素晴らしい。

『ド～！ド～！』と、雪崩の音を聞きながらの就寝でした。



3月29日（木）晴れ

ダケカンバ帯を過ぎ 2198mピークを抜けるとナイフリッジのアップダウン。雪の締まっている時間帯に通過するのが良いと思える箇所です。ナイフリッジの最後は、2メートルぐらいの崖！支点を確保する小さなハイマツが有難い。矢沢ノ頭（2411m）からは、蓮華岳を左に見ながら登る。爺ヶ岳（中央峰）に到着！目の前に劔岳が大きく見る絶景に感動！来て良かった～！

大きな雪庇に注意しながら黒部側にルートを取り、北峰、赤岩の頭（2488m）へ向かう。冷乗越のケルンを過ぎ、冷池山荘へ到着。冬季小屋は扉が閉まらない為、中は雪と氷だらけでした。冷池山荘裏に幕営。6時間の工程でした。おそ～い“

3月30日（金）晴れ

冷池山荘から布引岳の小ピークを超え鹿島槍ヶ岳（南峰）に到着！360度の大パノラマが、ここまでの苦労を癒してくれる絶景でした。立山の峰々をはじめ日本アルプスの峰々に手が届きそうです。冷池山荘に戻り、爺ヶ岳・立山の峰々を見ながらのランチ・飲酒は最高！4時間の工程。日向ぼっこをしながら文庫本を読み至福の時を過ごしました。



3月31日（土）晴れ

鹿島槍ヶ岳より御来光を見る為、2時に冷池山荘を出発。満月が劔岳に掛かる絶景を見る事が出来ました。下山後、爺ヶ岳北峰の北のハイマツに雷鳥との出合を求め散歩。残念ながら雷鳥に出会う事が出来ませんでした。夏は雷鳥を良く見かける場所らしいのですが、、（写真の点は、月です。） 5時間の工程



4月1日（日）晴れ



赤岩尾根を雪のしまった時間に通過する為5時前に下山開始！冷乗越辺りは大きな雪庇の為、赤岩の頭へ戻り赤岩尾根へルートを取るが、下り始めは急峻で、怖い！リッジ部を通過すると、高千穂平に到着。樹林帯を通過する頃には雪もザクザクで、踏み抜きに十分注意しながらの下山です。西俣出合に到着後、大冷橋までは一般道を歩くが『大いきな熊の足跡発見！』熊も春を待っていたんですね。

大町に戻り、薬師の湯にて疲れた体を癒し帰宅しました。 6時間の工程。

（文責・菅野）

花瓶山(692m) 2018年4月8日(日)

下山田、秋葉、馬場、志尾崎、斎藤正博、登楽喜山の会

術後2カ月、気落ちしており、散歩する気分にもなれず家にこもっていたが「リハビリに行こう」と誘われ先週スキーに出かけた。息苦しさもさほどなかったので今回またリハビリのため花瓶山へリハビリの誘いがあったので足手まといになる時は戻るのを覚悟で参加した。

登山口から数分で登りにかかる、イワウチワが出てきた。尾根までの間イワウチワが所々まとまって咲いていたが、時期は過ぎたようだ。やがて向山(553m)に到着。



向山から花瓶山山頂まではピークの上り下りを繰り返す。山頂近くになるとカタクリの花が出迎えてくれた、が前日の雨のせいかしぼんだまだ。

花瓶山山頂は展望がないのでブナを展望の利くところへ移動する。ぶなを見るところまでと計画だが、戻るには登り返さないとならないということで分岐付近で少し早い昼食とする。出発を 11 時 10 分とするが、気温が 5℃ と低いうえに風があり体が冷えてくる。11 時ならぬうちに出発し登山口には 12 時 00 分についてしまった。

{写真・斎藤正博} {文責：下山田}

<コースタイム>いわき 5:30ー登山口 8:00ー向山(553m) 8:36~8:45ー花瓶山山頂 10:35ー下山道分岐 10:40~10:58ー登山口 12:00ーいわき 16:00



イワウチワ



カタクリ



シュンラン



スミレサイシン



ニリンソウ



ネコノメソウ



ミヤマケマン



ユキモチソウ

飯森山

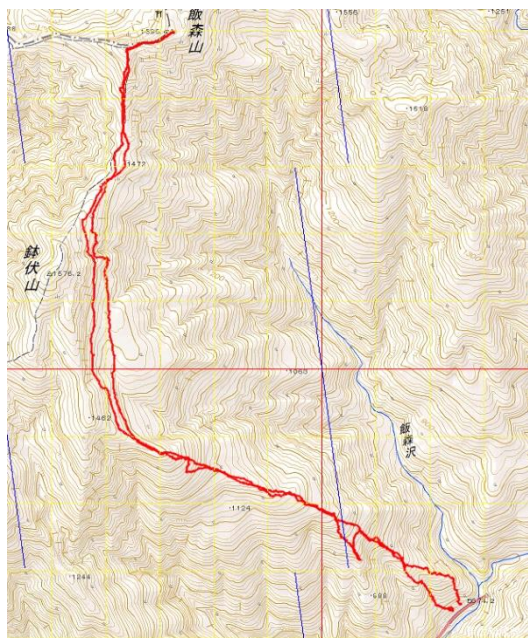
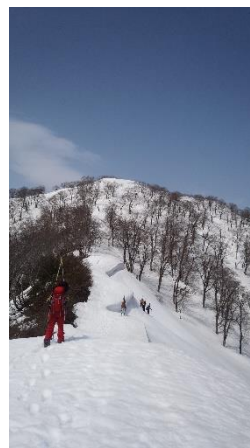
平成 30 年 4 月 1 日（日） 秋葉・渡辺（敏）・馬場・栗崎（透）・栗崎（容）・伊藤

福島県と山形県の県境に位置する飯森山にて山スキーをして来ました。



喜多方と米沢を結ぶ国道 121 号線の、県境に位置する大峠トンネル手前の駐車場より板を背負って登り始めます。

今年は例年より暖かい様で雪解けもだいぶ進んでおり、緩んでシャリシャリの雪質は崩れやすく、ブナの木の下がぼっかり根開きした様子はまるで落とし穴の様でした。それらを避けながら慎重に歩を進めますが、標高を上げるにつれ雪質も徐々に安定したものになっていきます。



先行する足跡がある事に気づいていましたが、しばらく

くすると徒歩で登る 3 名のパーティーに追いつきました。休憩の際にお話

を伺うと、地元の方で鉢伏山へ向かわれるとの事。飯森山へ向かう私たちはルートが別れ、鉢伏山の中腹を巻きながら飯森山への稜線を目指しました。

全層雪崩の跡に恐々としながら、高度感のある斜面を巻いていき、徐々に標高を上げていきます。

雪崩の恐れがある場所は速やかに通過。ビーコンの電池が古いままだった事を内心反省しながら稜線直下まで登り切り、スキーを履き鉢伏山～飯森山間のコルへ到着しました。

飯森山を臨みながら昼食とし、今回はここから滑る事に決め、しばし休憩。

その間、渡辺さんと

私は飯森山の山頂まで登り、滑り降りる事にしました。

板の裏にスキーシールを貼り付け山頂へ。



飯豊山をはじめ、四方八方見晴らしく、ここまでの苦労が報われます。

写真を撮りながら軽く滞在した後、露出した地面やクラックを避けながらコルへ向かって滑走。やはり下りはあっという間です。

全員でコルから鉢伏山へ向かって標高を上げ、滑走開始。

鉢伏山の中腹を巻くように滑って行きますが、途中の登り返しが少なくなるよう標高の維持を意識し、先頭を行く秋葉さんのルートより、気持ち高めの位置



を滑ってみました。が、クラックに阻まれて後戻りしたり、崖に出くわしスキーを外して尻セードしたり、結局体力と時間ばかり掛かってしまい、ルート選びの難しさを痛感した次第です。

その後も根開きの穴に落ちたり、尾根を一つ間違え登り返したりしましたが、幸いケガ無く滑り切りました。

適度な緊張感と難しさの中を滑り降りる充実感と楽しさは山スキーの醍醐味であり、天候にも恵まれ、良い山行となりました。



コースタイム

駐車場 8:03→鉢伏山と飯森山のコル 昼食 11:56 12:28→飯森山 13:04 13:17→コル 13:43
13:50→駐車場 16:17

(文責 伊藤)

いわき市の7山に展望板を設置

石城山岳会の2018年事業として、市内の7山（三森山、屹兎屋山、水石山、二ツ石山、往生山、朝日山、明神山）に分担し展望板を設置しました。

4月10日 三森山 秋葉、下山田、馬場、山本、志尾崎



道の駅「四倉」に集合し、久之浜の一盃森溜池林道コース登山口まで移動、登山開始。（＊このコースは三森山への最短コースですが林道に藪がかかっているの、車に傷が着くので手前の溜池コース登山口から歩いた方が良いでしょう。）

三森山はアセビが咲きはじめ、「アカヤシオの花が美しい」と有名な所ですが、今も盛りと咲き誇り楽しませてくれました。軌跡はジオグラフィカで記録した軌跡をスクリーンショットしたものです。

作業は午前中に終了したので、四倉港近くの食堂「草の根」でお腹を満ち解散しました。



4月12日 ニツ石山

秋葉、下山田、馬場、山本、栗崎夫妻、塩崎、山縣、芳賀

高野のヤマザキストアに集合、分乗し登山口へ。本日もジオグラフィカの実技をしながらの山行です。

頂上では志尾崎さんが用意してくれた「アンミツ」をいただきました。美味しかったです。



登山口に戻ってもまだ 11 時なので高野富士に登ろうと登山口に移動。

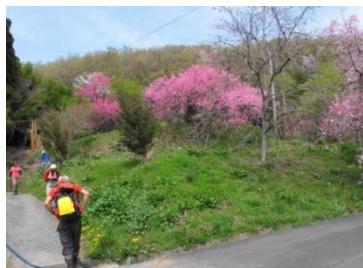
高野富士



「一の森（別名：高野富士）」は、高野花見山の近く磐越道を挟んで北に位置します。登山道はないので民家の方に声をかけて、適当なところを登り15分ほどで大山祇の石碑のある頂上に着いてしまう。

登山口の民家は桜、花桃、スイレン等が咲き誇りととても美しかったです。途中はヤマブキ、アオキ、ウグイスカグラ等が楽しませてくれました。

食堂「タンボポ」で湯ノ岳～三大明神の山並みを眺めながら昼食にしました。お餅が看板メニューですが、その他の物もどれもが美味で、隠れた名店です。



文責：秋葉

石城登山教室

4月山行

「霊山縦走」

2018年4月21日（土）

教室 6名 会員8名 計14名

30年度最初の実技山行は国の名勝で溶岩台地の霊山です、登山口は湧水の里です、管理棟に作業着の人が5・6人いたので話を聞くとここから登る人はあまりいないとの事でしたが山桜が中腹まで咲く季節には新緑と相まって非常に綺麗だそうです今日はあいにく麓までしか咲いていませんでした。





有名な湧水も水源地の清掃のため今日は出ていません。

駐車場到着時は気温15度ですが予報では福島で30度くらいになる予想です歩き始めると直ぐ汗が出ます、大きな岩が見えだすと梯子や鎖場が現れて来ます不動岩付近で最初の休憩、各自おやつを出して（もぐもぐタイム）です、Bさんだけ離れて（もくもくタイム？）でした。日枝神社前を通り霊山寺跡へここにはニリンソウが一面に咲いていました、霊

山城跡地で昼食休憩になりました暑くてもお湯を沸かしてラーメンを食べる人、今日みたいな日は冷たい麺でしょうとOさんが言ったらBさんだけコンビニの冷やし麺を美味そうに食べていました。

集合写真を撮り下山開始護摩壇の岩場をくぐり天狗の相撲場から国司沢の景観を眺めてこどもの村登山口へ全員無事に下山しました。紅彩館で汗を流して予定より早い帰着となりました。

見られた野草：ヒトリシズカ、アズマイチゲ、ヒメイチゲ、エイザンスミレ、タチツボスミレ、アケボノスミレ、カタクリ、フデリンドウ、ウスバサイシン



合同庁舎 6:30 湧水の里駐車場 8:50 霊山寺跡 10:40 霊山城跡 11:25
こどもの村登山口 13:00 紅彩館（入浴）14:00 合同庁舎 16:00

（文責：根本）

馬揚山 723.1m

4月19日（木） 秋葉・下山田・志尾崎・芳賀

7時45分 まだ春の初め、やっと木の芽が出始めた鉄塔の巡視路に行く。

15分ほど登ると頂上、風況調査のタワーあり。遥かに安達太良山・吾妻連峰をのぞむ。近くには、蓬田岳・大黒山・羽山等。10分で下山。登り口の看板を新しく付け直した。

雨降山 684m登山口 → 770m

「てんきちょう」と読む。古殿の人々の天気を知る山とのこと。

9時25分 松林の登山口を登り始め、ほどなく広葉樹林。色々な種類のスミレが咲いている。明るい樹林帯を20分登ると、頂上の広い平らな場所にでた。

梅ゼリーにてスイーツタイムとする。

とても心地よく過ごせる場所であったが、あたたかいせいか、小さな虫がたくさん飛びまわっていた。

三和町新田 大山桜に寄る。すばらしい大木の日本一の山桜とのこと。最高の見頃を迎えていた。山桜は花と同時に赤い葉が出るが、この桜の花は薄いピンクで、花柄が短い、直接枝についているように見える。



芝山 804m → 819.2m 二等三角点

車で駐車場まで登る。展望台は2か所あるが三角点のあるほうは工事中。

芝生のある広い頂上からの眺めは絶景。タンポポにアゲハチョウが飛びまわっていた。雪をいただいた山々が遥かに見えた。さっき登った、雨降山が近くに見え、塩見山がすぐ前、遠くに水石山からガロ山・神楽山・大滝根山が見えた。

芝山観音にお参り。

池には、水芭蕉が咲き、のすりがピーと鳴きながら上空を滑空していた。

昼食には、三坂の「キノコとまさ」に寄り、そばと天丼のレディースセットを食す。

その後 三坂神社にカタクリの群生を見に行く。いろいろの種類の花が咲き乱れる花の神社であった。三坂城跡散策。

(文責・志尾崎)

第6回いわきの山を歩く会

平成30年3月25日(日)



晴天、登山日和。75名参加。茱萸平を起点に屹度屋山(875m)、猫啼山(827m)、ニッ箭山(710m)を回る周回コースを縦走。各班に分かれ、自分の体力に合ったコースを歩いた。

ニッ箭山駐車場に集合。地図とコンパスの使い方を学び、要所で地形図上から現在地を確認しながら歩いた。

国道399号から屹度屋山南側加路川林道を通って、40分急登岩場登り、山頂1等三角点。岩場

からニッ箭山、猫啼山稜線を見渡すことができた。通信施設の下を通り、猫啼山山頂。「猫石」という大きな石があった。斑レイ岩とのこと。ニッ箭山山頂ではタコブナを見た。春風の下、山歩きで心地よい汗を流した。登山教室生はラスト山行となった。最大標高差550m、13kmの歩行。(文責・志尾崎)



雲河曾根山・敗退記

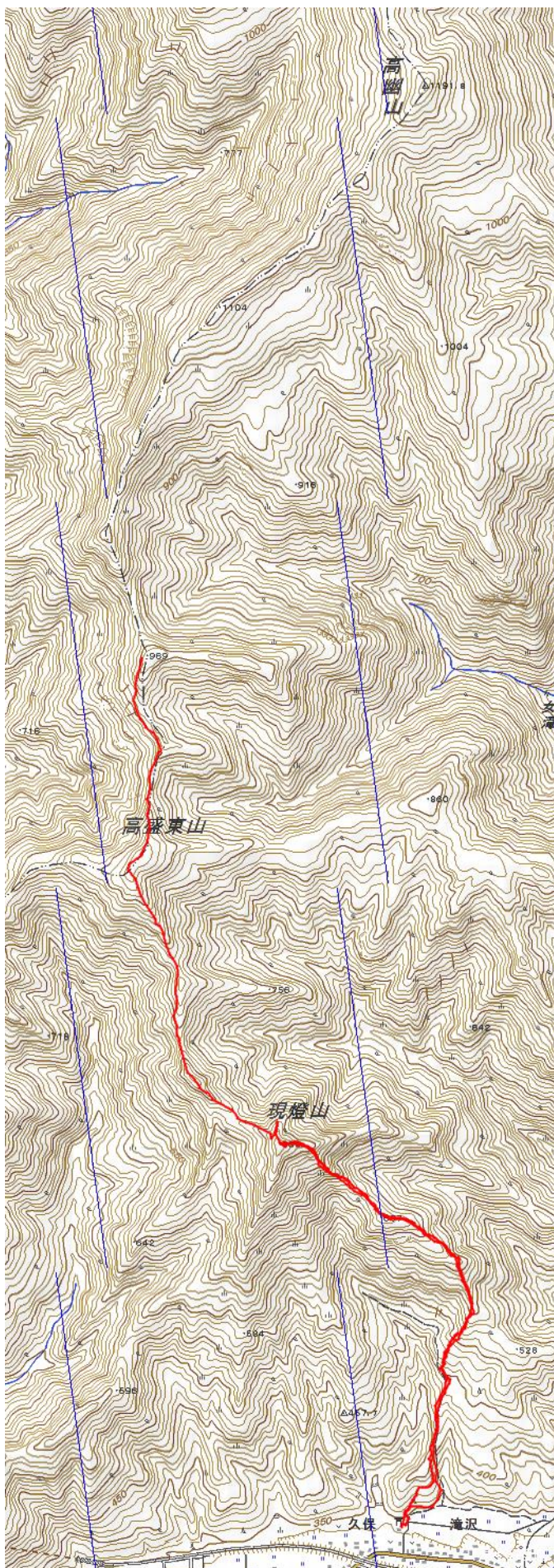
2018年4月23日 秋葉信夫

雲河曾根山は会越国境の一等三角点・貉ヶ森山の近くに位置する山で、わずか 1,290m の山ですが登山道は無い手強い山です。新潟県側から峰越林道を利用して登るか、福島県側からだと積雪期に登ることになります。

福島県側からの登路にこだわり、一昨年3月に一泊で秋葉、下山田、渡辺で行きましたが、現燈山手前のやせ尾根急斜面の巨大な雪塊に阻まれ敗退。昨年5月に単独で現燈山まで偵察。

今の時期なら雪塊は落ち、稜線は雪で繋がっているのではないかと、4月22日に郡山での岳連総会に出席し、その脚で金山町に向かい道の駅で車中泊。

23日、登山口の金山町大塩の熊野神社へ。熊野神社は桜、フキノトウ、カタクリ、キクザキイチゲが咲き誇っていました。



しかし、雪の廊下が続いているとの目論見は外れ、現燈山を過ぎても雪は現れず、やせ尾根急斜面の上り下りの藪漕ぎの繰り返しで高盛東山へ。もう少し行けばと思い、969mピークまで脚を伸ばすが、目的地ははるか彼方、雪は続いていない。ここで引き返すことにした。

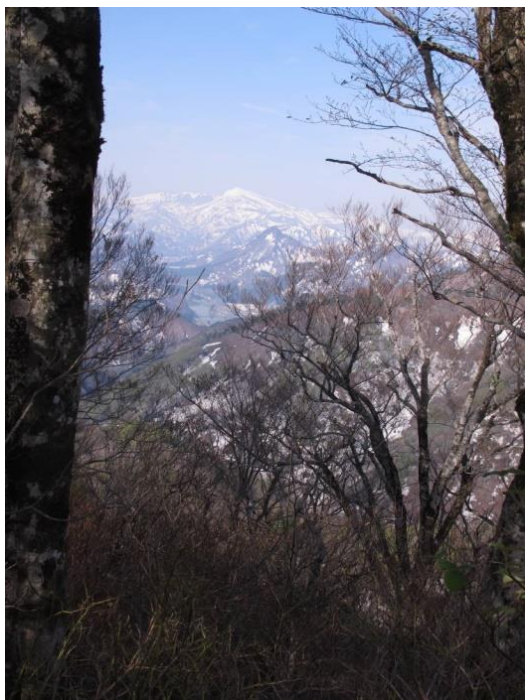
帰りも結構厳しく、登りと同じくらいの時間がかかってしまった。久しぶりに疲労困憊になり、他の人を誘っていたら嫌われただろうなと思ってしまいました。

目的の半分も行けませんでした。里からは見ることができない会越国境の山々を眺め、タムシバ、ミスミソウ、カタクリ、ミネザクラ、ヤマザクラ、ユキツバキ等を愛で、それなりに楽しむことができました。



ミスミソウ

熊野神社 5:50 → 現燈山 7:50 → 高盛東山 9:00 → 969mピーク 10:00 → 熊野神社 14:00



969mピークからの高
幽山、雲河曾根は更に奥

「山スキー 大荒沢～拇峰ルートを下見」

2018年4月17日(火)

山名 米沢市・大荒沢～拇峰

参加者 秋葉、渡辺、栗崎(透)、栗崎(容) 計4名

4月1日に喜多方市の飯森沢から飯森山へ山スキーに行きました。

帰宅後、米沢の友人にその話をすると「もし時間に余裕があれば、車1台を飯森沢から10分ほど米沢

に進んだ大荒沢にデボして、飯森山→楯峰→大荒沢というのもあるよ。大荒沢から入っている人も結構いるし」と教えてくれました。

その話を秋葉さんに話したところ、「それはおもしろい」ということで、「まずは大荒沢から入って楯峰までのルートを行けるところまで下見しよう」となりました。

唯一の懸念は、今春は夏日のような好天が続いた為に雪解けが早いということ。取り付き地点は、前回の飯森沢の標高 674m からグッと下がって 490m。

650m までは作業道のようなものがあるようですが、歩き始めしばらくは板を背負ってのヤブコギも覚悟して出かけました。

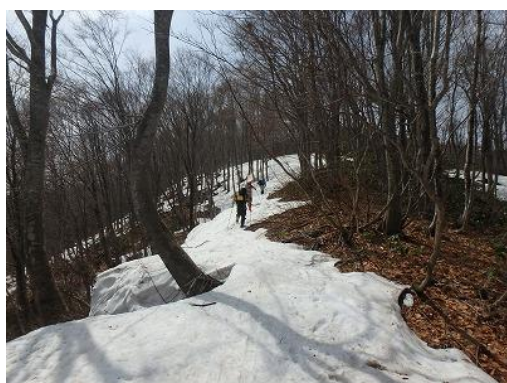
7:45 林業の作業場のような？広々とした場所の片隅に車を停めさせていただいて出発。

そこから大荒山不動尊までの間に作業道への取りつきがあるはずなのですが見つからない。

7:52 仕方なく、神社近くの藪の急斜面から取り付きました。これがこの日一番の急登。

滑ったら取り付いた地点まで落ちていきそうな斜度だったので、汗だくで必死に登りました(私は!).

8:35 やっとジグザグ道の作業道にぶつかり、ホッとひと息。しかし斜度は緩くなったものの、半端に伸びた枝が背負ったスキー板に絡んでなかなか進ませてもらえません。



8:55 やっと少しまとまった雪があるところに出ましたが、板を履けるほどは雪が繋がらない。板は背負ったまま雪面、笹藪、雪面、笹藪を何回となくくり返し、やっと板にシールを付けて歩き始めたのが 9:45。この間、北に朝日連峰がくっきりと見えたのはステキなご褒美でした。

ここから順調にシール登高が続くと思いきや、標高を上げて

も雪面、落ち葉の笹藪、雪面、落ち葉の笹藪が続き、スキー板を担いでみたり、ストック代わりに突いてみたりと奮闘。

どうやらこの先も雪は繋がってくれないようだし、とても楯峰までは行けないだろうということで、11:30、標高 945m 地点で本日の登りは終了とし、ランチタイムにしました。

12:20 下山開始。まずは板を履いて滑りだし、雪を拾って滑り降ります。ただ、同じルートを下るので、当然登って来た時と同じくスキー板は履いたり脱いだりの繰り返し。

そして 14:30、車に帰着しました。

なかなか苦行のような山でしたが、歩いたルートを1か月前、2か月前の雪量で想像すれば、かなり楽しいコースであることは推察できましたし、いくつかのピークを巻いて進むことも可能だと思いました。

しっかりと雪がある時期にぜひ訪れたいルートでした。その時は必ず憧れの楯森へ!!

(文責 栗崎容子)



田人の気になる山（９） 大山（438m）

2018年1月15日

秋葉信夫、

大山は沢を挟んで御齊所山の西方向に位置する。おそらく登山道がないであろうから、車で御齊所山に行き木々の間から、地形図で大山を同定しおおよそのルート进行予想する。神社の社殿は新築され綺麗になっていた。



地図には載っていないが塩ノ平林道がはいっており、林道終点まで入れた。車を置いてススキと藪の作業道をそれらしい方向に進むが、やがて作業道もなくなって比較的歩きやすいところを進む。



やがて植林地になり視界は広がるが、バラなどの藪漕ぎに手こずりながら一番高いところを目指して適当に進むと大山の頂上、シデノキの大木があり、縦山も望める。

帰路は歩きやすいところを選んで林道終点まで戻る。



帰りに南西方向の林道に入ってみると、縦山の近くまで入っていることが分かった。

井戸澤断層（塩ノ平断層）を見学し、前に友人（交通事故で入院中で意識不明）と一緒に御齊所山に来た時に寄った食堂「呑気」に入り、前と同じメニュー「ラーメンと餃子」を友を想いながら味わう。美味しい。

帰るとその友人が死亡したとの連絡が入った。

